



給食記念週間始まる！

今日22日(月)から26日(金)まで給食記念週間(全国的には24日から30日)が行われます。私や栄養教諭から給食にちなんだ話があったり、学年代表の子供のメッセージの発表などがあったりと、給食記念行事があります。そのような記念行事を通して、給食に関する理解を深めることをねらいとしています。

私の方からは、給食の時間に放送で、子供たちに次のような話をしました。

日本の学校給食は1889年(明治22年)に小学校で、「貧しい家庭の子供たちを助けよう」として行われたのが始まりです。その後、戦時中には一時中断されていましたが、戦後国民全体が食糧不足という状況の中、子供たちの栄養失調を救おうとアメリカの日本を助けるために作られた「ララ」という団体による援助を受け、給食が再スタートされました。この贈呈式が12月24日に贈呈式が行われましたが、長期休みに入るため、年が明けた1月24日からを給食記念週間としました。

実は、日本の給食は世界一と言われています。なぜそう言われていると思いますか？それは、日本の給食は、「バランス食の見本」とも言われ、世界中からのお手本とされているのです。そこには4つの秘密が隠されているのです。

秘密その①：栄養の計算が細かく行われている

各学校(給食センター含む)には栄養教諭や学校栄養職員といった給食を管理する専門家が配置されています。帯西では二ノ村先生がその役目を担ってくれています。二ノ村先生は、給食がバランスよく摂れるように工夫されています。

秘密その②：給食が教育の一環として行われている。

「食育」という言葉は聞いたことがありますか？例えば、給食の時間に、食材などを紹介したり、食べること(食)の大切さを授業で勉強したりすることです。このように食に関する勉強をしっかりしているのは日本の強みだとも言えます。

秘密その③：準備や片付け、あいさつなどの礼儀作法を学ぶことができる。

みんなで楽しく気持ちのよい食事ができるように席を整え、給食当番が中心となって準備をし、食事をするだけでなく、食事を行うために必要なマナーも学びます。

秘密その④：質に対する価格が安い。

学校給食のすごいところは、質に対する価格の安さです。できるだけ地元で取れた旬の食材やアレルギーの原因物質や添加物の少ない食材を使用した質の良い食事が安く食べることができる給食は世界からも注目されています。

このように様々な視点から見ても、日本の学校給食制度というのは非常に素晴らしいものなのです！これからも世界一の給食が食べることができることに感謝して、「いただきます」「ごちそうさまでした」のあいさつを心を込めて言ってください。

